

志賀昭裕

日本人では数少ない男性プロ・アルパ奏者として活躍する。演奏におけるテーマは『自由で楽しいおしゃべりなアルパ』。日本人にはなじみの薄いアルパをより身近なものにするため、シャープレバー付きのアルパを使いジャンルを超えた音楽にチャレンジし、アルパの更なる可能性に取り組む。またソロ活動に加えて、多くのミュージシャンとの共演など幅広く活動。2011年の東日本大震災の被災地では数十回の慰問演奏を行っている。2013年にパラグアイで行われた「世界アルパ・フェスティバル」にアジア代表として招かれて演奏、満員の聴衆を魅了する。これまでに4枚のCDを制作発表している。

アルパデュオ・ソソリーサ

パラグアイ人アルパ奏者エンリケ・カレーラと松木亜里沙によるアルパデュオ。松木亜里沙は大学在学中にアルパと出会い、2005年パラグアイに1年間単独留学し、現地では著名なアルピスタに師事。同年「グアランパレ・フェスティバル」で優勝。帰国後、2007年に第6回全日本アルパ・コンクールで優勝する。

エンリケ・カレーラは10歳よりアルパを始め、ニコラス・カバジェーロほかのアルピスタに師事。パラグアイでの主なアルパ・コンクールでの優勝受賞はじめ、アスンシオン交響楽団との共演など活動の場を広げる。松木亜里沙とエンリケ・カレーラは2006年にデュオを結成し活動の場を日本に移す。2008年「第2回世界アルパ・フェスティバル」でアジア代表として招待演奏を行い好評を得る。活動はコンサートのほかにパラグアイ大統領来日レセプションなどで演奏を披露し、2019年にはエンリケはパラグアイ政府観光庁よりパラグアイ名誉観光親善大使に任命される。

池山由香 / 藤枝貴子《カプマリ》

池山由香は国立音楽大学演奏学科声楽専修卒業。10歳のときアルゼンチンのプエノスアイレスでアルパと出会いチョチン・バルブエナ氏に師事。帰国後、チューチョ・デ・メヒコ氏に師事、日本では数少ないアルパの弾き語り奏者として活動する。

藤枝貴子は第2回全日本アルパ・コンクール3位入賞を機にパラグアイへ留学。約2年間の留学中はパピ・ガラン氏に師事し、恩師から学び得たアルパの技巧と歌心は一瞬の間に開花し、恩師と瓜二つと評されるまでに成長。この二人はパーカッションに「すすきあゆみ」を加えた編成で、2台のアルパがステージ上で羽を広げた蝶々のように見えることから「気まぐれな＝カプリチオーサ」〈蝶々＝マリポーサ〉を合わせた造語カプマリとしても活動する。

今村夏海

名実ともに日本で唯一のプロのメキシカン・アルパ奏者と呼ばれる存在に成長。6歳のときにチューチョ・デ・メヒコ氏のアルパ演奏を聴き氏のアカデミアに入門し10年間ラテン音楽の基礎を学ぶ。17歳からメキシコに住むメキシカン・アルパ奏者のアルベルト・デ・ラ・ロサ氏に師事。20歳より本格的に活動を開始する。23歳のときに制作したCD発売記念コンサートを東京はじめ全国5都市で行い、メキシコではベラクルス州の4都市で開催し好評を得る。コロンビア、メキシコで開催されている国際アルパ・フェスティバルに2014年から招待されて出場。2022年10月にはメキシコのカンクンで行われるカンクン国際アルパ・フェスティバルに出演を予定している。これまでに3枚のCDを発表。

歌田みゆき / 塩満友紀《ラス・エルマーナス》

歌田みゆきは10歳より日本人アルパ奏者の第一人者であるロシア塩満氏の下でアルパを始める。2008年にメキシコに住むアルパ奏者セルソ・ドゥアルテ氏の指導を仰ぐためアルパ留学する。帰国後はNHK連続テレビ小説「つばさ」をはじめ、TVドラマやアニメのサウンドトラックやいろいろなアーティストのアルバムにも参加。ロシア塩満教室のピックアップメンバーで構成された「ラス・カンパーナス」の一員としてパラグアイ大統領の御前演奏や各種イベントでも活動。2013年に1stCDをリリース。

塩満友紀はロシア塩満氏からアルパを習い始める。大学卒業後にメキシコに渡り、アルパをセルソ・ドゥアルテ氏に師事し、その後、第9回全日本アルパ・コンクールで優勝。力強い奏法は男性にも引けを取らない。ライブ活動だけではなく、学校や高齢者施設でも演奏するなど、アルパの裾野を広げべく演奏を続ける。2015年、サントリーホール・ブルーローズで行った1stCDの発表記念コンサートは好評を博す。2021年には2ndCDを発表。伝統的なアルパの名曲からJポップまで幅広いジャンルの曲を収録。

ロシア塩満アルパ教室の姉妹弟子である二人は、2015年にアルパデュオ「ラス・エルマーナス」を結成し各地で活動する。因みに「エルマーナス」はスペイン語で姉妹を意味する。

小野華那子

青森県弘前市出身。これまでに本田宏彦氏、チューチョ・デ・メヒコ氏、敏子・根津・サンドバル氏に師事、現在は東京を拠点に全国各地で演奏活動を行う。2013年、全日本アルパ・コンクールにて準優勝、国際交流協会賞・千葉日報社賞を受賞。翌年2014年にアルパの本場であるパラグアイへ留学し本格的にアルパを学ぶ。JR函館新幹線開通による誘致用公式観光PVの作曲をはじめオリジナル曲の楽曲提供やNBFビルランチャタイムコンサートで全国ツアー、国立弘前大学特別講師を務めるなど、幅広く活動を続ける。

神山里映子

第5回全日本アルパ・コンクールにて金賞を受賞。計5回のパラグアイ留学により、アルパの演奏技術と表現力に磨きをかける。クリアできらめきのある音色は本場でも定評があり、パラグアイのコンサートでは「天使の矢が飛んでくるように心に直接届く音」と評された。演奏する楽曲はパラグアイ音楽にとどまらず、クラシック、ジャズ、ポップスなど様々なジャンルに取り組み、レバーアルパやリヤーベを駆使して演奏。これまで発表した4枚のCDからはアルパの可能性を追い求める姿が見てとれる。

さかもと鈴

2011年の第8回全日本アルパ・コンクールでグランプリを受賞。パラグアイで開催された「第6回世界アルパ・フェスティバル」に代表出演する。「グアランパレ・フェスティバル」では特別招待者として演奏を披露する。また幼少期を過ごした長野県では長野市若里市民文化ホールにてデビューコンサートを開催。これまでに3枚のCDを制作発表して、楽器のすばらしさと可能性を知ってもらおうとソロ演奏を中心に幅広く活動を続ける。

ネルソン鈴木

幼少期をパラグアイで過ごす。日本在住だったパラグアイ人アルパ奏者ガブリエル・ゴンサレス氏から16歳の頃にアルパの指導を受け、習い始める。2011年の第8回全日本アルパ・コンクールで特別賞「毎日新聞社賞」を受賞を機に2012年にアルパを本格的に学ぶためにパラグアイへアルパ留学、マルセロ・ロハス氏に師事し、1年間アルパ漬けの毎日を送り帰国。2018年にさいたま市文化振興財団主催の「紅白ライブバトル」で最優秀賞受賞。同年7月に、初の単独コンサートを開催。2020年に全日本アルパ・コンクールで金賞を受賞する。現在は結婚式、イベント、ライブ・レストランなどで活動する。

ロシア塩満

パラグアイへのアルパ留学を経て、アルパ奏者として1975年にプロ・デビュー。日本でのパラグアイ音楽・文化の普及に対する功績が認められてパラグアイ政府から日本人のアルパ奏者として初めて1995年に【文化功労賞】、2004年に【国家功労勲章・コメンダドール位】を拝受。パラグアイで開催された『世界アルパ・フェスティバル』の第1回と第10回という節目のイベントにアジア代表として招待され演奏する。アルゼンチンでは世界的な音楽祭「コスキン・フェスティバル」に計5回出演し、その様子はアルゼンチン全土にテレビ中継される。パラグアイのストロエスネル大統領をはじめとして六代の大統領の御前演奏を務め、日本とパラグアイの文化の懸け橋という役目を果たす。これまでにソニー盤を含めて11枚のCDを制作発表するなど精力的に活動する。

北区滝野川会館大ホール会場案内

北区滝野川会館大ホール ☎03-3910-1651

●JR京浜東北線 上中里駅 下車 徒歩約7分

●地下鉄南北線 西ヶ原駅 下車 徒歩約7分

※駐車スペースに限りがございますので、車でのご来場はご遠慮ください。

